新潟市立岩室中学校　教育ビジョン 2023

教育目標　これからの社会を見据え、育成したい生徒の姿

よりよい姿を求めて学ぶ生徒　（になる）

「よりよい姿を求めて学ぶ」とは

（1）正解のない課題に正対し、自ら問いを立て、自ら学び、自ら考え、行動していく力を身に付けること。

（2）地球規模の視野から課題を認識し、自分事として捉え、解決のために足元から行動すること（Think Globally, Act Locally）ができること。

重点目標　教育目標の実現に向け、学校生活のさまざまな場面で表出されることを目指す生徒の姿

（1）自分で気付く、考える、動く

（2）物事を広い視野で多面的に捉える

（3）他者と調和を図りながら、共に創る

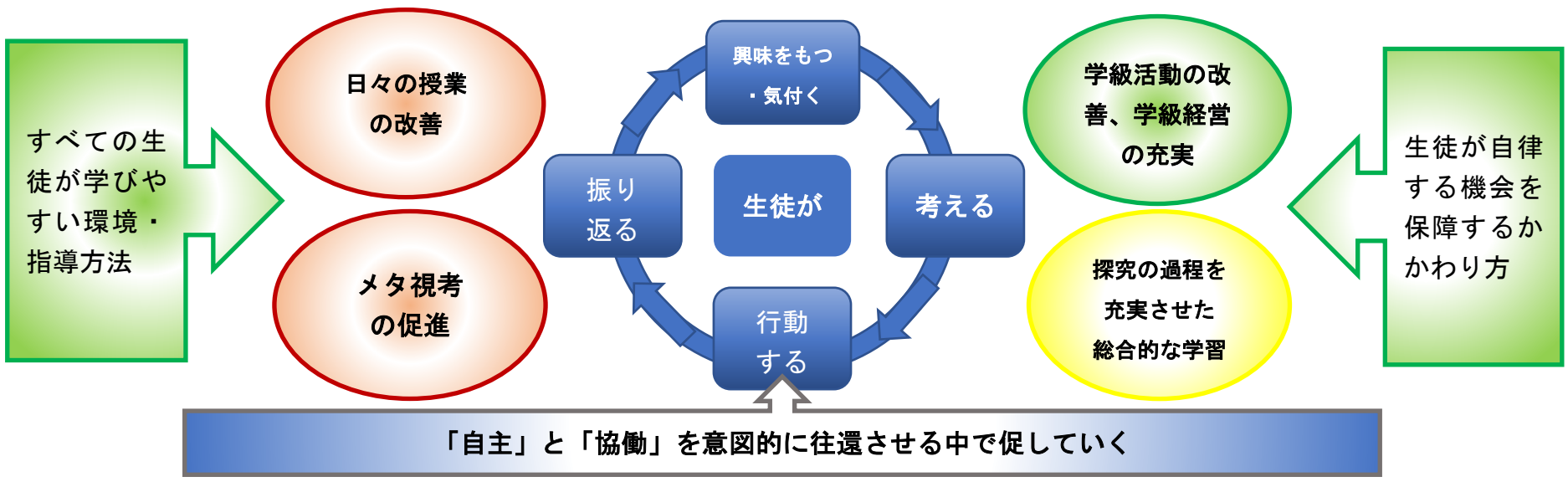
教育活動の重点　目標に設定した姿を具現するために重点をおくこと

（1）「深い学び」をつくる

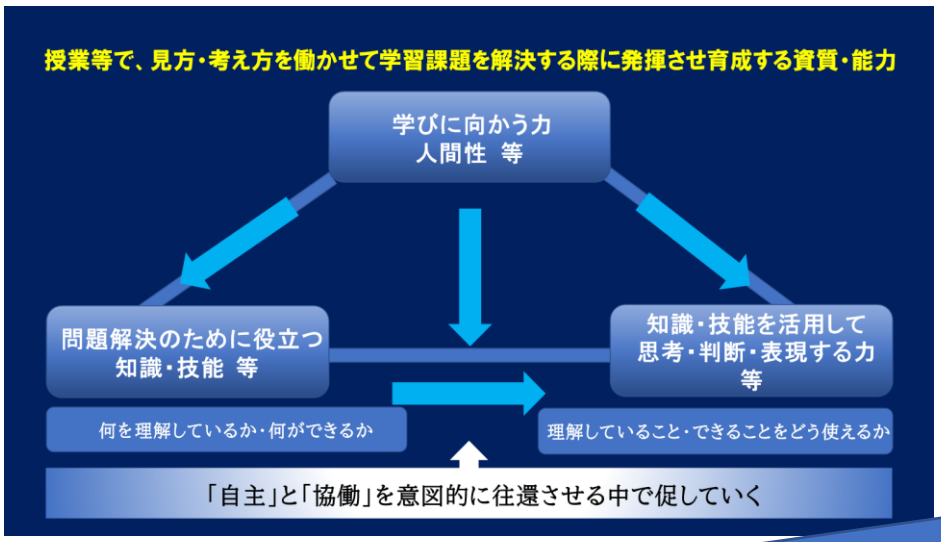
（2）「自己調整学習力」を育む

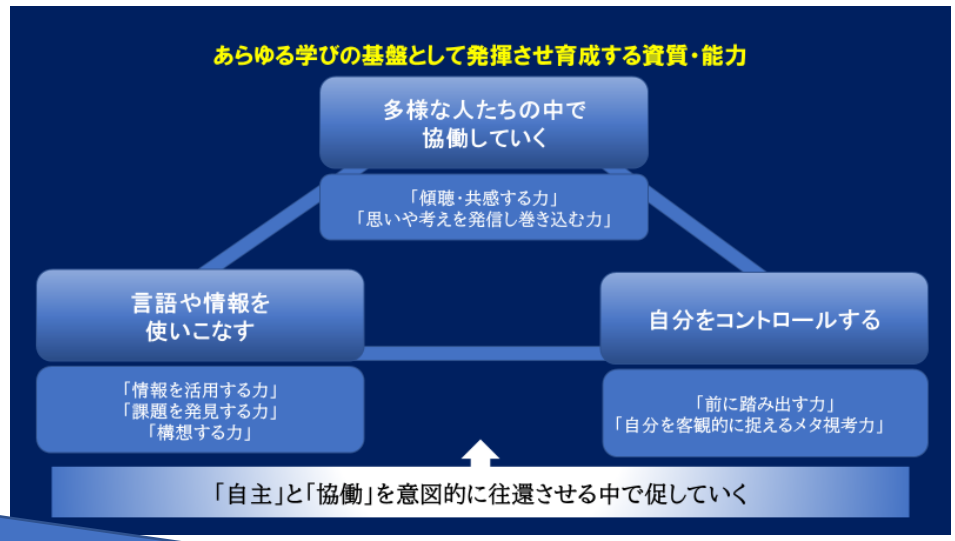
（3）「自己肯定感」と「グロースマインドセット」を育む

※「グロースマインドセット」とは、自分がもっている能力や才能は経験や努力によって成長できると考えること。失敗を恐れず挑戦し他者の評価に一喜一憂せず自己成長と学びを継続できる原動力となる。



教育課程全体を通して育む資質・能力





教育活動の基盤に据えること

（1）共に歩む地域の学校の推進

①学校、保護者、地域の信頼関係が一層強固となるための情報公開、説明責任

②実効性の高いコミュニティ・スクールの運営

・目的および内容の理解が地域に一層広まるような工夫

・総合的な学習の時間における地域と学校協働活動の展開

・令和８年度本実施の「新潟市中学生のための地域運動活動・文化活動」に向けた段階的な準備

③地域と学校パートナーシップ事業の重点化と継続

④目指す人間像の共有と９年間の成長を見通した学区内小学校との一層の連携

（2）授業、行事、職員研修等での目的を明確にしたファシリテーションの積極的活用による学び合う文化の醸成

（3）GIGA スクール構想の積極的活用

重点の具体的方策

(1)「深い学びにいたる授業」をつくる。(日々の授業改善)

①研究推進委員会のマネジメントにより、目指す深い学びの姿（生徒がどうなったら深い学びなのか）と授業過程（どうやったら深い学びになるのか）を教科ごとに設定した上で、具現に向けて教師一人一人が自己の授業課題の解決に計画的に取り組む。

・単元・題材ごとの目標および評価方法を明確にし、導入段階で必ず生徒と共有する。
・単元・題材全体を通して、問題意識、興味・関心、必要感等を触発し、学習活動に対する目的意識をもたせる手立てを工夫する。
・学習課題や発問について、生徒に知識や技能を繋いでどうやったら解決できるか方法を考えさせたり、こうではないかと仮説を立てさせる時間を設定する。
・考えや方法を交流・拡散させるのか検討・収束させるのか等、ねらいを明確にして対話的な活動を組織する。
・対話的な活動で得られた情報を整理統合して考えをまとめたり形として表現したりする活動を組織する。

②学習部のリーダーシップにより、各教科等の「単元・題材における資質・能力一覧表」と「評価計画」に基づく指導と評価の一体化を確実に進める。

③教科の単元・題材や特別活動のねらいに応じて、認知する方法、考える方法、伝える方法、合意形成する方法などの具体的スキルを意図的・計画的に習得、発揮させる。

(2) 教科等の授業、特別活動において「予見（見通し)」「自己モニタリングと遂行コントロール」「省察（振り返り)」の 3 つの場面を生徒自身に意識させながら循環させることで「自己調整学習力」を育む。

①単元・題材ごとの目標および評価方法を明確にし、導入段階で必ず生徒と共有する。

②学習課題や発問について、生徒に知識や技能を繋いでどうやったら解決できるか方法を考えさせたり、こうではないかと仮説を立てさせる時間を設定する。

③実行している学習や活動がうまく進んでいるかどうか、方法や考え方が適切かどうかを途中で確認し、調節する時間を設定する。

④実行したことを評価して理由や原因を明らかにし、今後の学習や活動にどのように適用させられるか考える時間を設定する。

⑤短い期間・範囲で学習の確認（単元テスト等）の機会を設定することで学習後時間を空けずに「わかっていること・できていること」と「わかっていないこと・できていないこと」を明らかにさせる仕組みにする。

(3) 生徒指導部と特別活動部が連携して、日々の学校生活の諸場面で生徒が「自ら気付く、考える、行動する」機会を奪わないかかわり方を組織的に推進し生徒が自律する機会を保障する。

①「自己肯定感」「自己有用（効力）感」の向上を目指した多様な経験を充実させる。

②「自己理解」につながる多様な価値観に触れる機会を充実させる。

③特別活動部のリーダーシップにより、学級力向上プロジェクトを核として学級活動の改善・学級経営の充実を組織的に図る。

・生徒が自ら創造・実践することを通して「自己調整力」「合意形成・意思決定力」を育てる。
・「自己存在感」「共感的な人間関係づくり」「自己実現」を目的にした活動を行う。

④すべての生徒にとって学びやすい環境整備、指導と支援の方法を保障する。

・教室の基礎的環境整備と授業のグランドルールを徹底する。
・授業や諸活動のねらいに即して、全員の考えが大事にされ、個の力が生かされ、かかわり合いが促進されるファシリテーションの考え方とスキルを積極的に活用する。
・ケース会議を核に生徒の課題把握と役割分担を明確にした支援体制を強化する。
・校内適応指導教室や保健室の活用、関係機関との連携体制を明確にする。
・障がいや特性を踏まえた個別の指導計画に基づく支援を行う。

(4) 総合的な学習の時間をあらゆる学習の基盤として重点と考える資質・能力を育成する柱に位置付け、主体的で協働的な深い学びが実現できる探究の過程と評価の方法を工夫する。

①「探究の過程」を充実させ、「深く掘り下げてみる目」「広い視野でみる目」「将来をみる目」を養う。

・調査、取材、体験等を通して、対象にふれる、対象を知る。
・対象について問いや課題を立てる。
・情報を集め、それを活用して、問いの解決や課題を実現する方法（仮説）を考える。
・計画を立て、仮説を実行してみる。
・結果を基に問いの答えや課題の結論を考え、まとめる。
・他者に発信したり、議論したりして学びを深め、広げ、価値付ける。

②実社会と関連付けた探究学習を通して、「グローカルマインドをもち、社会貢献者となる」素地を育てる。

・自分たちが暮らす地域を学びのフィールドとし、地域のヒト、モノ、コトを題材にして、歴史、価値や魅力、独自性を深掘りする。
・「新潟市総合計画 2030」「区ビジョン」等を学び、新潟市が目指す都市像や政策と地域との関係について知る。
・多面的に地域を捉えさせたり地域の独自性に着目させたりするために、他の地域と比較する活動を位置付ける。
・地域独自の問題、地域と新潟市や日本全体、世界の問題とのかかわり等から課題を設定し、よりよい地域づくりのために今どんなことが取り組まれているか、そのために尽力している人について学ぶ。
・地域の問題や課題をよく理解し、それを自分事として受け止めて、その解決、解消、実現に向けグローカル視点から方法を考え、具体的なアクションプランの提案、発信をする。

③新潟市が推進する「ESD（持続可能な開発のための教育)」にかかわる学習活動を計画的に位置付ける。

「地域理解教育」「人権教育」「防災教育」「主権者教育」に重点を置き、総合的な学習の時間で行うほか各教科等での関連する学習内容を明確にする。